



## 令和5年度指導教諭による授業公開(中部スタイル)が実施されました。

今年度も指導教諭による授業公開が実施されました。今年度は以下の9会場で行われ、3~4名の指導教諭の先生方にチームを組んでいただき、授業公開に加えて授業改善に係る実践発表も行っていました。

| 会場校        | 公開授業日     | 授業者氏名及び教科等<br>(指導教諭)   | 実践発表者氏名及び教科等  |
|------------|-----------|------------------------|---|
| 宮崎市立小戸小学校  | 10月30日(月) | 長友 晃一 理科               | 春園 真由美 学級活動<br>東 絵美 算数科<br>佐藤 友香 特別支援教育                           |
| 宮崎市立赤江小学校  | 11月2日(木)  | 長沼 康孝 音楽科              | 三角 友修 算数科<br>佐多 洋子 算数科  |
| 宮崎市立東大宮中学校 | 11月28日(火) | 福良 維素子 家庭科             | 桑原 麻里 外国語科<br>江藤 千恵 算数科   |
| 宮崎市立榎小学校   | 12月1日(金)  | 増岡 亜衣子 国語科             | 竹内 美貴 国語科<br>高橋 悟史 算数科<br>松浦 英子 算数科<br>鬼島 勝代 算数科<br>植野 木 算数科      |
| 宮崎市立湖見小学校  | 12月4日(月)  | 渡部 美紀 外国語科             | 伊地知 朱里 算数科<br>福山 聡 算数科<br>河野 和寿 算数科<br>新垣 敬子 算数科                  |
| 宮崎市立江平小学校  | 12月5日(火)  | 長曾我部 博 体育科<br>(特別支援教育) | 藤田 博美 音楽科<br>重藤 博美 音楽科<br>藤内 倉 千穂 音楽科<br>内之倉 千穂 音楽科<br>井之上 美保 音楽科 |
| 宮崎市立生目小学校  | 12月7日(木)  | 尾崎 智子 社会科              | 河野 和寿 算数科<br>新垣 敬子 算数科  |
| 国富町立本庄中学校  | 12月11日(月) | 金本 志秀 音楽科              | 重藤 博美 音楽科<br>藤内 倉 千穂 音楽科<br>内之倉 千穂 音楽科<br>井之上 美保 音楽科              |
| 宮崎市立加納中学校  | 12月14日(木) | 谷口 理香 数学科              | 井之上 美保 算数科<br>北 政彦 算数科  |

本事業は、学び手である子どもたちを中心に据えた「主体的・対話的で深い学び」の授業改善に向けて、管内の先生方の授業づくりに関する知識・技能を高め、指導力の向上を図ることを目的として実施しました。

初期研、2年経過研修の対象の先生方を始め、年齢・経験問わず総計164名の多くの先生方に参加していただきました。その一部ではありますが、12月1日(金)に宮崎市立榎小学校で行われた増岡指導教諭の授業公開を紹介いたします。

### 増岡指導教諭の授業公開

授業公開では、第6学年の国語科「海の命」を教材として、「太一は、なぜ、瀬の主を打たなかったのだろうか」というめあてを設定し、児童が叙述を基づいて考えを出し合いながら納得解を見つけ出すという内容でした。

増岡先生と児童の対話の中で「瀬の主を打たなかった理由」について、何度も議論が交わされ、時間の経過とともに児童の思考が深まっていく姿に参加者された先生方も感激を受けておられました。研修後のアンケートからも、「国語科の授業づくりの多くのヒントを得ることができた。今後の授業の中で実践していきたい。」等多くの先生方の「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業づくりの意欲の高まりを感じました。



【増岡指導教諭】

### 協議&実践発表



【竹内指導教諭】



【高橋指導教諭】



【松浦指導教諭】



授業後に行われましたグループ協議では、参加された先生方が日頃抱える課題を話し合ってもらい、時には指導教諭の先生方から助言をいただきながら、学びを深められていました。増岡指導教諭の授業の姿を自分たちの学級と照らし合わせながら、今後の授業改善へと思いを馳せられていました。

その後は、3名の指導教諭の先生方から日頃の授業実践について話をいただきました。宮崎市立恒久小学校の竹内指導教諭からは、「国語科におけるめあてとまとめの在り方」、宮崎市立国富小学校の高橋指導教諭からは、「体育科における個別最適な学び+協働的な学び」、宮崎市立東大宮小学校の松浦指導教諭からは、「算数科における習熟の時間」についてお話をいただきました。各教科間の関連性や児童の主体性の引き出し方など参加された先生方の授業への意識転換が図られる大変貴重な学びとなりました。

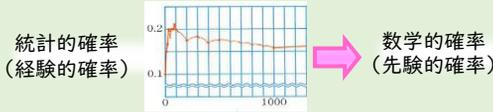
指導教諭の先生方、参加された先生方からいただいた貴重な御意見をもとに、更なるブラッシュアップに努め、次年度も皆様にとって満足していただける『指導教諭による授業公開』を目指していきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

題材： 中学校第2学年数学（啓林館）6章『場合の数と確率』1節2いろいろな確率 2月予定〔2/4時間〕

【本時で育成する資質・能力】同様に確からしいことに着目し、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現すること。確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現すること。  
 （思考力・判断力・表現力）

◎ 前時までの学習・・・事柄の起こる確率やもれや重なりがないような数え方（樹形図）の学習

知識・技能の確認  
 ※ さいころを投げて1の目が出る確率  
 ※ 考えられるすべての場合を整理する方法（樹形図・リーグ表・図 など）



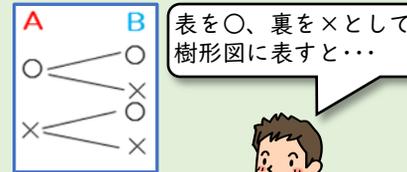
起こる場合が全部でn通り  
 事柄Aの起こる場合がa通りのとき、  
 Aの起こる確率  $p = a/n$

【導入段階】 本時の学習内容となる事象を前時までの学習と結びつけて教える

2枚の10円硬貨を投げたときの出方は、「表・表」「表・裏」「裏・裏」の3種類がありますが、出方は、同じ程度でしょうか。1分ですでにできるだけ投げる実験をしてみましょう。

「表・裏」となる場合が多いことを実験等を通して実感させる。

実験のとおり、「表・裏」の出方が「表・表」「裏・裏」より多いです。実は、2枚の10円硬貨を区別すると、「表・裏」「裏・表」の組み合わせができることになります。



**問題**

黒玉が1つ、白玉が2つ入った袋がある。中を見ずに、1つ玉を取り出し、続けて、もう1つ玉を取り出す。白と黒が出る確率をAさんは、 $1/2$ と考えているが正しいだろうか。

白 < 白黒  
 黒 < 白黒

組み合わせは、(白、白)(白、黒)(黒、白)(黒、黒)の4種類あり、確率は、 $1/2$ になると思うけれど…。硬貨の実験と違うのは、白玉が多いこと。どのように考えればよいのだろうか？

教師がAさんの考えを取り上げ、その考察が正しいかどうかを問うことからめあてにつなげる

【めあて】 樹形図をかいて考えた確率は、どのように考察すればよいだろうか。

【展開段階】 根拠を基に筋道を立てて考え、公式・法則・方法を導き出す

①個人での予想

玉は3つあるから、2枚の硬貨と同じ考え方ではいけないと思う。

2枚の硬貨のように、2つある白玉を区別する必要があるのでは？

前回の校内放送の曲を選ぶ問題では、3曲あったから、樹形図の先頭はA、B、Cの3つを並べたね。

③各班の考えを全体で協議

すべての班のまとめると・・・  
 (共通項+追加項+異なる考えの整理)

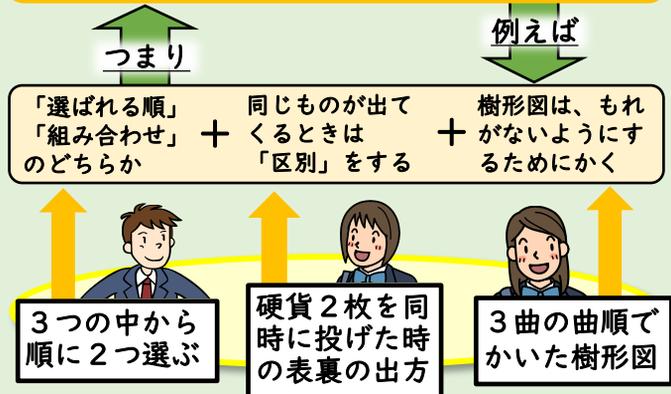
④協議を経てまとめる

【まとめ】

- 樹形図をかいて考えた確率が正しいといえないのは、2つある白玉を区別して考えていなかったからである。
- 確率を考えるときは、
  - ・要素（硬貨やカード）の種類を適切に区別すること
  - ・図や表でもれなくかきだすこと
  - ・同様に確かであるか確認すること
  - ・「組み合わせ」「順序」のどちらで考えるか検討すること

②協働的な学びによる考察

確率を考えるときは、同じものは「区別」してもれがないように図や樹形図で表し、順か組み合わせかを考えてから求める必要がある。



【終末段階】 学習内容の定着と発展的な課題の提示で習熟を図る

- レベル① 「基本的な学習内容の習熟」の場合
- 3枚の硬貨を同時に投げるとき、
- ① 3枚とも裏になる確率を求めなさい。
  - ② 少なくとも2枚が表となる確率を求めなさい。
- レベル② 「実社会・実生活での活用をイメージした」場合

ことわざで「残り物には福がある」といいますが、くじ引きで、最初に引くときと最後に引くときは違いがあるでしょうか。